

4 1・音楽で涙が出る時

高校時代、電磁工学の授業時間に先生が講義を中断し無駄話をしてくれた。詳細は忘れたが、とにかくピアノの音色はすばらしい・ピアノで名曲を聴いていると涙が出てくる・、というような話だった。当時私は先生の話をほとんど理解できなかったが、放課後先生が音楽室で独りピアノを弾いているうしろ姿をしみじみと見たことを思い出す。先生は相当熱弁であったが、その後社会に出てから現在に至るも、まだ覚えているということは決して無駄話ではなかったのだと今さら思う。

七十年代後半の頃、マレーシアのとあるホテルの広いロビー、吹き抜けの中二階の席で独りくつろいでいると、下のほうからピアノの演奏が聴こえてきた。見下ろすとロビーの一角で演奏している男性のうしろ姿が見えた。何曲か聴いているうちに感極まり、涙がこぼれて仕方がなかった。後でそれはリチャードクレイダマンの曲と知り、帰国時にはレコードを買って持ち帰ったが、それ以来すっかりファンになってしまった。

今思い返してみると、あの時は遠くはなれた地での郷愁の想い、ファミリーや人恋しさがあったのだと思う。その時の心境と音楽がマッチした時、人は素直に感動し癒され、また勇気がわいてきたりするものだ。五月にクレイダマンのジャパンツアー2006を聴きに行ったが、心に響かず涙が全くでなかった。広いホールでA/Vを駆使したオーケストラ、大きなスピーカーシステムでガンガン。やはりホテルのロビーなどで聴く静かな独奏が良いと思う。

アラブに長期滞在した時は、テレサテンの歌と詩に何度も泣かされた。つぐない、愛人、時の流れに身を任せ、その他何を聴いてもジーンとさせられた。

バンコック長期滞在ではクレイダマン、テレサテンの他に裕次郎をプラスした。錆びたナイフ、泣かせるぜ、夜霧の慕情、忘れるものか、さよなら横浜、横浜物語、北の旅人・書いたらキリが無い。どれを聞いても胸を締め付ける何かがあった。

4 2・今そこにある心配 (2006. 8)

松下電器のアジアでの生産規模は国内より多く、今や日本とアジアは運命共同体とのことである。日本の対中貿易額(含む香港)は米国を抜き年間約二十五兆円、日中の相互依存はものすごいものがあり、これは勿論私達の日常生活に直結しているはずだ。一方、東大大学院博士課程に籍を置くチーチンインさんによると、中国のネットでは二つの気持ち広がっているらしい。

一つは、恥知らずの日本と言いつ争う必要ない、日本なんか相手にするなと言う怒りを通り越したあきらめ感、

二つ目は、もっと強硬な姿勢で日本と対決せよ・らしいが、実はこれが圧倒的に多いとのことである。八月十五日の首相参拜で過激な反日デモは無かったようだが、両国民の心は更に離れ、厳しくなった様だ。未来を担う若い国民の心の離反は大きな問題だ。侵略し大きな犠牲を強いた側の国が「文化の問題だ、心の

問題だ」と言っている、らちがあかないと思うが・・・。

43・建前と本音が違うと人が死ぬ (2006.8)

最近、あるメーカーのエレベーターの問題で人が死んだ、調査してみると似たような事故が多発していたようだ。また、ある湯沸かし器の問題で人が死んだのに二十年間もメーカーは手を打たなかった。今度はある浴室換気乾燥暖房機の問題で火災発生、メーカーも役所も把握していたのに何も周知せず、五年間何も手を打たなかったのだ、その後二十三件も火災事故が発生してしまった。

今まで似たような問題は政界、財界を問わずいろんな分野で起こっていたに違いない、今も起こっている、きつとこれからも起こるだろう。多分人間も会社も生き残って行くためにそう簡単に、素直に教訓を学び、活かし、決断、断行出来ないのが実態なのだろう。もしかして性善説より性悪説のほうが正解かもしれない。だからこそなかなか手ごわい相手だ。でも情報公開、透明度アップ、公明正大の世の中にしていく必要性は皆が良く分かっている筈なのに・・・、建前と本音はいつの世も、どの分野でもあるようだ。

44・絶対許せない！ (2006.9)

八月の末だったと思うが、福岡で家族連れの車が飲酒運転の車に追突され橋の上から海に転落、父母が暗い海に何回も潜り必死で救出行動をしたが、愛する子供を一度に3人も失くしてしまった。

多くの国民が他人事とは思えず胸を詰まらせた筈だ。あれから約一ヶ月、あれほど悲しいショッキングな事故が起きたにも拘わらず、毎日のように新聞、TVで飲酒運転の事故を報じている。

昔から実に多くの人命が飲酒運転の犠牲になり、残された家族を悲しみのどん底に突き落とし、幸せな未来を無惨にも断ち切っている。今日もどこかで起こっているだろう。許せない！ 絶対許せない！ 腹が立つ！ 秋田県は1999年（今から七年前だ）、県職員が飲酒運転で反則切符を切られただけで懲戒免職ができるルールを作った。その後2003年には飲酒運転は原則免職と厳しくした。その結果、交通事故死に占める飲酒運転の割合が全国で一番低くなっているとのことである。一番多い沖縄県の十分の一以下だそうだ。

もし七年前に政治家がもっと深刻に考え、秋田県のように全国的な行政指導をしていたならば、福岡の事故は多分起きなかったでしょう。また、今日も誰かが酔っ払いの犠牲にならずに済むに違いない。交通事故に限らず幼児虐待など、日本は悲惨な状況になっているが、Yes、NOをハッキリし、NOには明快な対策を即打ち出す政治をし、美しくもなく、醜い日本にならないようにして欲しいものです！（新首相は「美しい日本」と言っているが、果たしてどうなることか・・・）

先日の新聞を読んでビックリし、私はどうしたら良いのかと困惑した。入学式や卒業式で国旗に向かって起立することや国歌斉唱を強要することは、思想、良心の自由を侵害すると言うことで違憲、違法と東京地裁が判決を下した。しかも、そのことを主張していた先生方四百一人（原告）に対し、一人三万円の慰謝料を払うことを東京都に命令した。

裁判長の説明では「今の国旗や国歌は軍国主義の精神的支柱として、昔用いられた経緯があるので、反対する人の思想、良心の自由も保護されなければならない」と言うことらしい。

大戦直前に生まれた私は物心ついてから現在まで極自然に日の丸を愛し、学校でも社会に出てからも国歌を歌ってきた。何も疑うことなく日本人として、国民として、当然の事として国歌を斉唱し国旗を掲揚してきた。

そもそも世界中どここの国でも、国旗や国歌は良い時代も悪い時代も、長い歴史を刻み込んでいるのではないだろうか。また、自分の国の国旗や国歌に敬意を払わない国があるのだろうか。日本の国旗や国歌だけが特別なわけではないと思うが・・・。それとも新しい国旗や国歌を創れと言うのでしょうか、反対の人は国旗を掲揚し、国歌を歌いながら「二度と過去の過ちは犯してはならない」と改めて思えば良いのではないだろうか。国歌を歌わない国旗を掲揚したくないだけでは国は良くならない。

裁判長はそのような理性で国民を説得したほうが良いと、私は感じますが・・・。

